

第258回 日本循環器学会関東甲信越地方会

日時 令和2年12月12日(土)～12月14日(月)
開催形式 Web開催
※会場にての開催はございません ※一部の共催セミナーを除き、全セッションオンデマンド配信
開催URL http://www2.convention.co.jp/jcs-kanto/chihoukai/kanto_258.html
会長 国立国際医療研究センター病院 循環器内科
廣井 透雄

御 案 内

- 参加費：会員 3,000円
初期・後期研修医、コメディカル 1,000円
医学部学生 無料 ※学生証必須
- オンライン参加登録：http://www2.convention.co.jp/jcs-kanto/chihoukai/kanto_258.html
- プログラム：I 教育セッション
II 生物統計セミナー
III 医療安全・医療倫理に関する講習会
IV 第5回ダイバーシティ・フォーラム
V 日本循環器学会関東甲信越地方会・東京CCU研究会ジョイントセッション
VI 日本循環器学会関東甲信越地方会と日本心臓リハビリテーション学会関東甲信越支部の合同シンポジウム
VII スポンサーセミナー ※一部LIVE配信
VIII Awardセッション
IX 一般演題
- Award：Student Award、Resident Award、Clinical Research Award、Case Report Awardを設け、各Award最優秀賞、優秀賞を顕彰いたします。
審査委員による第一次書類審査の選考後、審査委員長・審査委員による音声を伴う発表データを基に第二次審査を行います。
なお、以下の項目が審査の対象となります。
 - 正しい医学用語の使用
 - 発表時間の厳守と態度
 - 考察
 - 循環器臨床に対する貢献度
- 専門医単位登録：第258回地方会では下記単位の取得が可能です。
 - 地方会参加単位（5単位）
 - 教育セッション単位（3単位）
 - 医療安全・医療倫理に関する講習会（2単位）
 - 心臓リハビリテーション認定指導士更新単位（3単位）※各単位取得方法の詳細につきましてはWeb開催サイトにてご確認ください。

次回地方会：第259回地方会は次の通りです。

日時：令和3年2月13日(土)～15日(月)
開催形式：Web開催
会長：田村 功一（横浜市立大学 医学部 循環器・腎臓・高血圧内科学）

I 教育セッション

教育セッション I

遠隔医療

座長 (自治医科大学附属さいたま医療センター 循環器内科) 藤田 英雄

遠隔医療の総論的考察 —ICTの側面から—

(国立国際医療研究センター 医療情報基盤センター) 美代 賢吾

COVID-19感染拡大におけるオンライン診療

(医療法人社団 鉄祐会) 武藤 真祐

RST遠隔モニタリングシステムにより在宅患者の心不全増悪を検知する

(富山西総合病院 内科) 麻野井英次

急性冠症候群における心電図

(自治医科大学附属さいたま医療センター 循環器内科) 藤田 英雄

教育セッション II

血友病、HIV、新型コロナ

座長 (国立国際医療研究センター病院 循環器内科) 廣井 透雄

HIV感染血友病における虚血性心疾患スクリーニング

(国立国際医療研究センター病院 循環器内科) 廣井 透雄

HIVと冠動脈疾患

(国立国際医療研究センター病院 循環器内科) 原 久男
(国立国際医療研究センター病院) 久保田修司

ポストコロナに向けての研究開発戦略

(国立国際医療研究センター 臨床研究センター) 杉浦 互

COVID-19と心血管合併症の病態

(東京大学大学院医学系研究科 循環器内科学) 赤澤 宏

COVID19パンデミック時代の心筋梗塞例の受診控えの懸念

(東海大学医学部付属病院 循環器内科学) 伊莉 裕二

II 生物統計セミナー

生物統計セミナー

座長 (日本医科大学大学院医学研究科 循環器内科学分野) 清水 渉

臨床論文を読み解く際に必要な生物統計学の知識

(横浜市立大学 データサイエンス学部) 阿部 貴行

Ⅲ 医療安全・医療倫理に関する講習会

医療安全・医療倫理に関する講習会

座長 (国立国際医療研究センター病院 循環器内科) 廣井 透雄

医療事故発生時の初動対応と患者の意思に基づく医療

(弁護士法人棚瀬法律事務所 代表弁護士) 棚瀬 慎治

Ⅳ 第5回ダイバーシティ・フォーラム

第5回ダイバーシティ・フォーラム

第1回 めざせ循環器専門医！循環器専門医試験対策セミナー

座長 (日本医科大学 武蔵小杉病院 救急・総合診療センター 総合診療科) 塚田 (哲翁) 弥生

今後の循環器専門医試験の動向 (新制度・旧制度) について

(日本医科大学 循環器内科) 高野 仁司

診療実績表の書き方: 赤ペン添削します

(筑波大学 循環器内科) 石津 智子

コメンター (東京女子医科大学 循環器内科) 佐藤加代子

コメンター (日本大学医学部 内科学系先端不整脈治療学分野) 中井 俊子

コメンター (国立病院機構相模原病院 循環器内科) 森田有紀子

コメンター (東邦大学医療センター佐倉病院 心臓血管外科) 齋藤 綾

コメンター (千葉大学医学部附属病院 循環器内科) 小野 亮平

コメンター (東京女子医科大学病院 循環器内科) 木村真樹子

コメンター (済生会横浜市南部病院 循環器内科) 圓谷 紘乃

V 日本循環器学会関東甲信越地方会・東京CCU研究会 ジョイントセッション

東京都CCUネットワークのデータから見る肺塞栓症

座長 (国立病院機構東京医療センター 循環器内科) 縦山 幸彦

東京都CCUネットワークのデータから見る肺塞栓症の現況

(武蔵野赤十字病院 循環器科、東京都CCUネットワーク学術委員会)

野里 寿史

(東京都CCUネットワーク学術委員会)

山本 剛、村田 哲平、間淵 圭、原 信博、

水野 篤、久武 真二、正司 真、辻田 裕昭、

長尾 建、高山 守正

急性肺血栓塞栓症の急性期治療

(東京都済生会中央病院 循環器内科) 武井 眞

肺塞栓症の慢性期合併症

～慢性血栓塞栓性肺高血圧症 (CTEPH) の診断と治療～

(東邦大学医療センター大橋病院 循環器内科) 池田 長生

Ⅵ 日本循環器学会関東甲信越地方会と 日本心臓リハビリテーション学会関東甲信越支部の合同シンポジウム

- 心リハでIoTを活かす
座長 (昭和大学 医学部内科学講座循環器内科学部門) 木庭 新治
座長 (北里大学 循環器内科) 東條美奈子
- 一次予防に対するIoTの活用と心リハへの応用可能性
(東京都健康長寿医療センター研究所 自立促進と精神保健研究チーム) 笹井 浩行
- 産学連携で取り組む二次予防へのIoT導入
(順天堂大学 循環器内科) 横山 美帆
- 心リハを行政・地域と共に手がける『CREYoN² (クレヨン) プロジェクト』: 維持期心リハのIoT応用を目指して
(横浜市立大学附属病院 リハビリテーション部) 岡村 正嗣
(昭和大学藤が丘病院 循環器内科) 磯 良崇

Ⅶ スポンサーセミナー

- スポンサーセミナーⅠ**
【Live配信のみ】 12月12日(土) 10:00-10:45 共催: 第一三株式会社
見落としませんか? 意外と身近なMR関連高血圧 座長 (東京医科大学 循環器内科学分野) 富山 博史
(東京女子医科大学 高血圧・内分泌内科) 森本 聡
- スポンサーセミナーⅡ**
【Live配信のみ】 12月12日(土) 11:00-11:45 共催: 日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社/日本イーライリリー株式会社
糖尿病と循環器疾患~ SGLT2阻害薬の可能性~ 座長 (順天堂大学大学院医学研究科 循環器内科学) 南野 徹
(日本医科大学大学院医学研究科 循環器内科学分野) 清水 渉
- スポンサーセミナーⅢ**
【Live配信のみ】 12月12日(土) 12:00-12:45 共催: プリストル・マイヤーズスクイブ株式会社/ファイザー株式会社
抗凝固療法のUp to date-ハイリスク患者の治療戦略を考える- 座長 (慶應義塾大学医学部 循環器内科) 高月 誠司
(東京慈恵会医科大学 臨床薬理学) 志賀 剛
(東京女子医科大学 循環器内科) 萩原 誠久
- スポンサーセミナーⅣ**
【Live配信のみ】 12月12日(土) 13:00-13:45 共催: バイエル薬品株式会社
高齢者VTEにおける問題点 ~診断と治療~ 座長 (日本大学医学部 内科学系 循環器内科学分野) 永嶋 孝一
(東京都健康長寿医療センター 循環器内科) 青山 里恵
- 多疾患合併AF症例の抗血栓療法 ~どう考え、どう処方するか~
(北里大学医学部 循環器内科学) 深谷 英平

- スポンサードセミナーV**
【Live配信のみ】 12月12日(土) 14:00-14:45
高齢者心不全の新しい考え方
 (東京都健康長寿医療センター) 原田 和昌
共催：大塚製薬株式会社
座長 (JCHO東京新宿メディカルセンター 循環器内科) 齊藤 哲也
- スポンサードセミナーVI**
【Live配信のみ】 12月12日(土) 15:00-15:45
PCI後の抗血栓療法現状と課題
 (東京女子医科大学 循環器内科) 山口 淳一
共催：武田薬品工業株式会社
座長 (公益財団法人 日本心臓血圧研究振興会 榊原記念クリニック) 寺岡 邦彦
- スポンサードセミナーVII**
【Live配信のみ】 12月12日(土) 16:00-16:45
心不全治療におけるナトリウム利尿ペプチドの意義 - ARNIへの期待-
 (信州大学医学部 循環器内科学教室) 桑原宏一郎
共催：大塚製薬株式会社 メディカル・アフェアーズ部
座長 (荻窪病院 心臓血管センター循環器内科) 石井 康宏
- スポンサードセミナーVIII**
【Live配信のみ】 12月13日(日) 12:00-12:45
熊本における心アミロイドーシス診療の現状 ~早期診断・早期治療のために知っておくべきこと~
 (熊本大学病院 循環器内科) 高潮 征爾
共催：ファイザー株式会社
座長 (東京慈恵会医科大学 内科学講座 循環器内科) 吉村 道博
- スポンサードセミナーIX**
【Live配信のみ】 12月13日(日) 13:00-13:45
siRNAを考える～ATTRvアミロイドーシス治療の新たな可能性～
 (慶應義塾大学医学部 循環器内科) 遠藤 仁
共催：Alnylam Japan株式会社
座長 (東京大学大学院医学系研究科 重症心不全治療開発講座) 波多野 将
- スポンサードセミナーX**
【オンデマンド配信】
共催：アボットメディカルジャパン合同会社
座長 (千葉メディカルセンター 循環器内科) 青木 直人
座長 (横浜労災病院 循環器内科) 柚本 和彦
- Xience Skypointの使用経験
 (聖マリアンナ医科大学病院 循環器内科) 御手洗敬信
- Xienceのevidenceと実臨床での有用性
 (済生会横浜市東部病院 循環器内科) 小林 範弘

スポンサーセミナーⅫ

【オンデマンド配信】

共催：テルモ株式会社

Lesion Oriented PCI with Intravascular Imaging

普段使いのOFDI

(大久保病院 循環器内科) 森山 優一

石灰化病変におけるOFDIの有用性

(済生会横浜市東部病院 循環器内科) 小林 範弘

AnteOwl WR

(心臓血管研究所付属病院 循環器内科) 及川 裕二

VIII Awardセッション

Student Award

座長 (群馬大学大学院医学系研究科 循環器内科学) 倉林 正彦
座長 (横浜市立大学医学部 循環器・腎臓・高血圧内科学) 田村 功一
審査委員長 (筑波大学医学医療系 循環器内科) 家田 真樹
審査委員 (東邦大学医療センター大橋病院 循環器内科) 諸井 雅男
審査委員 (東京女子医科大学 循環器内科) 萩原 誠久
審査委員 (東邦大学医療センター佐倉病院 心臓血管外科) 齋藤 綾

VIII-1 心電図P波、T波の電気軸が漏斗胸におけるNuss手術成功の新しい指標となる 解剖学的心臓圧迫を考慮した検討

(千葉大学 医学部 医学科) 大塚 玲
(千葉大学 医学部 循環器内科学) 船橋 伸禎、小林 欣夫
(千葉大学 医学部 放射線医学) 堀越 琢郎
(千葉大学 医学部 形成外科) 三川 信之

VIII-2 ヒト房室弁輪の心房一心室筋の近接性と副伝導路形成の可能性に関する検討

(昭和大学 医学部 第5学年) 加藤 祐樹
(昭和大学 医学部 法医学講座) 松山 高明、曾根 浩元
(昭和大学 医学部 臨床病理診断学講座) 矢持 淑子

VIII-3 右心カテーテル検査と心エコーによる経時的な血行動態評価を行った拡張相肥大型心筋症の一症例

(国際医療福祉大学 医学部) 岡田 奈那
(国際医療福祉大学 医学部 循環器内科) 河村 朗夫、稲見 茂信、杉村宏一郎、加藤 倫子、杉本 一将、紺野 亮

VIII-4 肺高血圧症における12誘導心電図上のJ波出現とその意義の検討

(千葉大学 医学部 医学科) 一松小百合
(千葉大学 医学部 循環器内科学) 船橋 伸禎、小澤 公哉、小林 欣夫
(千葉大学 医学部 呼吸器内科学) 田邊 信宏、巽 浩一郎

VIII-5 冠動脈CTAで診断される不安定狭心症患者における放散痛の臨床的意義に関する検討

(群馬大学 医学部 医学科 6年) 寺島 里佳
(医療社団法人CVIC 心臓画像クリニック飯田橋) 小林 真琴、伊藤 順子、高村 千智、寺島 正浩

Resident Award

座長 (獨協医科大学 心臓・血管内科/循環器内科) 井上 晃男
座長 (東京大学大学院医学系研究科 重症心不全治療開発講座) 波多野 将
審査委員長 (自治医科大学附属さいたま医療センター 循環器内科) 藤田 英雄
審査委員 (東邦大学大学院医学研究科 循環器内科学) 池田 隆徳
審査委員 (日本医科大学武蔵小杉病院 総合診療科) 塚田 (哲翁) 弥生
審査委員 (東京大学大学院医学系研究科 循環器内科学) 赤澤 宏

VIII-6 一時的な機械的循環補助によりにより救命できた薬剤性心筋症による重症心不全の一例

(東京大学医学部附属病院循環器内科)

久米 里実
石田 純一、進藤 彰人、門脇 裕、赤澤 宏、
小室 一成
嶋田 正吾、小野 稔
網谷 英介、波多野 将

(東京大学医学部附属病院心臓外科)
(東京大学医学部附属病院循環器内科/重症心不全治療開発講座)

VIII-7 多枝の特発性冠動脈解離により急性心筋梗塞、心室細動をきたした若年女性の一例

(SUBARU健康保険組合太田記念病院 循環器内科)

野口 聡明
清水 貴之、矢口 知征、高江洲 悟、能戸 辰徳、
長島 義宜、根本 尚彦、安齋 均

VIII-8 冠危険因子のない若年女性に対して早期心臓CT検査で救命しえた高安静脈炎による左冠動脈起始部狭窄の1例

(東邦大学医学部内科学講座循環器内科学分野)

鈴木 琢途
小池 秀樹、藤野 紀之、岡 洋佑、松本 新吾、
細野 啓介、木内 俊介、中西 理子、天野 英夫、
久武 真二、池田 隆徳

VIII-9 腹部大動脈閉塞に対しGORE®VIABAHN VBXを用いて血管内治療を試みた一例

(新久喜総合病院)

熊谷 悠
佐賀 俊文、山田 悠人、堀 優人、御子柴晴樹、
浦田 雅弘

VIII-10 リンパ形質細胞性リンパ腫に合併した肺高血圧症に全身化学療法が奏効した1例

(国家公務員共済組合連合会 虎の門病院 循環器センター内科)

馬場 悠輔
小宮山知夏、山口 徹雄、児玉 隆秀
山本 久史

(国家公務員共済組合連合会 虎の門病院 血液内科)

Clinical Research Award

座長 (三井記念病院 循環器内科) 田邊 健吾
座長 (公益財団法人日本心臓血管研究振興会附属 榊原記念病院) 磯部 光章
審査委員長 (東京大学大学院医学系研究科 循環器内科学) 小室 一成
審査委員 (帝京大学医学部 内科学講座・循環器内科) 上妻 謙
審査委員 (自治医科大学 内科学講座 循環器内科学部門) 荻尾 七臣
審査委員 (北里大学医学部 循環器内科学) 阿古 潤哉

VIII-11 ペースメーカージェネレータ交換術における皮下ポケットから大胸筋下ポケットへの移行

(医療法人社団前橋会 高崎ハートホスピタル 心臓血管外科)

川谷 洋平

(医療法人社団前橋会 高崎ハートホスピタル 循環器内科)

小栗 淳

VIII-12 入院回数が急性心不全症例の予後に与える影響についての検討

(東京大学 医学部 循環器内科)

四元 春輝
伊東 秀崇、桐山 皓行、加門 辰也、武田 憲文、
森田 啓行、小室 一成
金子 英弘、藤生 克仁
森田光治良、康永 秀生
道端 伸明、城 大祐

(東京大学 医学部 循環器内科、東京大学 医学部 先進循環器病学講座)

(東京大学 医学部 臨床疫学・経済学教室)

(東京大学 大学院 医学系研究科 ヘルスサービスマニファクチャリング講座)

VIII-13 皮下植込み型除細動器(S-ICD)におけるoversensingの予測因子の検討

(新潟大学医歯学総合病院 循環器内科)

袴田 崇裕
大槻 総、井神 康宏、長谷川祐紀、八木原伸江、
飯嶋 賢一、和泉 大輔、南野 徹

Case Report Award

座長 (慶應義塾大学医学部 循環器内科) 福田 恵一
座長 (東京大学大学院医学系研究科 心臓外科) 小野 稔
審査委員長 (筑波大学 循環器内科) 石津 智子
審査委員 (東邦大学医療センター大橋病院 循環器内科) 中村 正人
審査委員 (順天堂大学 大学院医学研究科 循環器内科) 南野 徹
審査委員 (筑波大学医学医療系 循環器内科) 野上 昭彦

VIII-14 Congenital left atrial band (CLAB)の発現起源として静脈管が示唆された一例

(旭中央病院)

上迫 隼太
矢崎海基人、佐橋 秀一、笠井 裕平、石橋 典幸、
荒川 雅崇、平野 智士、サツキヤ サンディープ、
早川 直樹、宮地浩太郎、榎田 俊一、神田 順二

VIII-15 肺高血圧症を契機に診断された原発性肺胞低換気症候群の一例

(昭和大学横浜市北部病院循環器センター内科)

成井 崇朗
山本 明和、藤岡 立樹、薄元宗一郎、石垣 成鉦、
飛鳥井 邑、嶋津 英、斎藤 惇平、木村 太郎、
大山 祐司、木戸 岳彦、小野 盛夫、井川 渉、
荏原誠太郎、岡部 俊孝、山下賢之介、雨宮 妃、
磯村 直栄、落合 正彦

VIII-16 リウマチ性僧帽弁狭窄症に対する僧帽弁置換術後に石灰化左房を認めた難治性心不全の一例

(三井記念病院 循環器内科)

野中 英彰
矢作 和之、石沢 太基、関口 将大、中島 百香、
瀬戸口尚登、中村 公亮、中瀬 将明、渡辺 悠介、
菊島 朋生、二宮 開、田中 徹、堀内 優、
阿佐美匡彦、田中 旬、小宮山浩大、湯沢ひとみ、
青木 二郎、田邊 健吾

(三井記念病院 病理部)

森 正也

VIII-17 Ramucirumab投与中に発症した心機能障害に対し薬物療法で心機能が改善した一例

(武蔵野赤十字病院 循環器科)

吉田 耕輔
大方信一郎、長瀬 将、三井健大朗、新田 義一、
渡辺 敬太、宮崎 亮一、永嶺 翔、金子 雅一、
原 信博、中村 知史、李 哲民、永田 恭敏、
野里 寿史、足利 貴志

(武蔵野赤十字病院 消化器科)

金子 俊、黒崎 雅之

(東京医科歯科大学医学部付属病院 循環制御内科学)

笹野 哲郎

VIII-18 冠攣縮による一過性重度僧帽弁逆流を、アセチルコリン負荷試験と心エコーを組み合わせ診断した一例

(慶應義塾大学病院 循環器内科)

(国立病院機構 埼玉病院)

服部 修
梶野 了誉、佐々木賢二、丹羽 直哉、田中 宏明、
徳田 華子、鶴見 昌史、矢嶋 紀幸、小野 智彦、
松村 圭祐、鈴木 雅裕

(埼玉医科大学国際医療センター 心臓内科)

岩永 史郎

[訂正]

名前：服部 修

所属：

誤) 慶應義塾大学病院

正) 国立病院機構 埼玉病院

Ⅸ 一般演題

セッション I-1

虚血性心疾患1

- IX-1 PCI中のwireによる冠動脈穿孔をコイル塞栓でbail outに成功したが、他部位からの再出血が遷延した一例
(高崎ハートホスピタル) 石橋 峻
小栗 淳
- IX-2 冠攣縮によるST上昇型急性下壁心筋梗塞でファスジルが著効した一例
(横浜市立大学附属市民総合医療センター 心臓血管センター内科) 児玉亜希子
松澤 泰志、中橋 秀文、南本 祐吾、秋山 英一、
木村裕一郎、岡田 興造、前島 信彦、岩橋 徳明、
日比 潔、小菅 雅美、木村 一雄
- IX-3 キャッスルマン病患者が発症したヘパリン起因性血小板減少症 (HIT) の1例
(北里大学 循環器内科学) 松田 泰紀
(北里メディカルセンター) 塩野 方明、佐藤 大輔、三谷優太郎
- IX-4 デクスメトミジン使用により冠攣縮を起こした一例
(東京都保健医療公社 大久保病院 循環器内科) 山崎 優華
森山 優一、宮原 大輔、喜多村一孝、谷井 博亘、
岡野 喜史、櫻田 春水
- IX-5 右冠動脈に高度石灰化病変を有したSevere ASに対しTF-TAVI後、2期的にRotablatorを用いたPCIを施行した1例
(獨協医科大学病院 心臓・血管内科/循環器内科) 鈴木立二郎
廣瀬 優、北原慶次郎、和久隆太郎、米澤 泰、
戸倉 通彰、那須野尚久、西野 節、金谷 智明、
佐久間理吏、阿部 七郎、井上 晃男
(獨協医科大学病院 心臓・血管外科) 武井 祐介、柴崎 郁子、福田 宏嗣
- IX-6 VA-ECMO管理中に急性呼吸促進症候群を発症しVV-ECMOを介して良好な経過を辿った急性前壁心筋梗塞の一例
(深谷赤十字病院 初期臨床研修医) 中村 俊介
(深谷赤十字病院 循環器科) 村上 文崇、金井 杏奈、戸田 和辰、市川 啓介、
田口 哲也、関口 誠、宮嶋 玲人、長谷川修一、
山崎 雅夫
(群馬大学医学部附属病院 循環器内科) 倉林 正彦
- IX-7 42歳急性心筋梗塞 (STEMI)で責任血管前後の血管内径に差が大きく治療に難渋した1例
(富士吉田市立病院 内科 循環器) 石垣 成紘
浅野 冬樹、手塚 隆弘、若月 大輔
(山梨大学第二内科) 小林 剛

セッション I-2

虚血性心疾患2

- IX-8 ST上昇型急性心筋梗塞とその後の急性ステント血栓症の血栓が採取できた1例
(国立病院機構水戸医療センター 循環器内科) 伊藤 雄太
大澤 匠、折居 大輔、矢口 拓実、田畑 文昌、
中山 明人、小泉 智三
- IX-9 下側壁誘導のST上昇を認めた対角枝領域の急性心筋梗塞の一例
(藤沢市民病院 循環器内科) 菅原 拓哉
早川 梓、大野 哲、宮川 秀一、岡島 裕一、
高野 桂子、三橋 孝之、塚原 健吾
- IX-10 blow-out型左室自由壁破裂をきたした側壁心筋梗塞の一例
(国立病院機構相模原病院 循環器内科) 小嶋 寛之
野田 光里、森田有紀子、大竹 諒、高橋 広軌、
山本明日香、福岡 雅浩
(横浜市立大学 医学部 循環器・腎臓・高血圧内科学教室) 日々 潔、木村 一雄、田村 功一
- IX-11 Bentall術後に人工血管-左冠動脈主幹部吻合部閉塞によるNSTEMIを発症した症例に対してPCIを施行した一例
(東京医科歯科大学 循環器内科) 梅本 朋幸
中村 峻、中尾 仁彦、雨宮 未季、鎌田 龍明、
山本 祐、平尾 龍彦、仁井田崇志、仲村 太一、
松田 隼治、白井 康大、田尾 進、秦野 雄、
滝川 正晃、有馬 秀紀、米津 太志、高橋 良英、
前嶋 康浩、合屋 雅彦、笹野 哲郎
- IX-12 川崎病に伴う巨大冠動脈瘤に対して冠動脈瘤切除および冠動脈バイパス術を施行した1例
(東京慈恵会医科大学附属病院 心臓外科) 齊藤 翔吾
高木 智充、中尾 充貴、星野 理、松村 洋高、
儀武 路雄、國原 孝
- IX-13 急性腹症にて搬送された急性心筋梗塞の1例：医学生からの急性冠症候群の初期症状を考える
(国際医療福祉大学 医学部) 井上 愛
(国際医療福祉大学 成田病院 循環器内科) 河村 朗夫、加藤 倫子、吉澤 彰宏、市来 智子

セッション II-1

心膜・腫瘍1

- IX-14 褐色細胞腫により周産期に心不全を生じた一例
(独立行政法人 国立病院機構 高崎総合医療センター) 湯浅 直紀
羽鳥 直紀、久野 貴弘、高橋 伸弥、小林 紘生、
伊藤 芽以、村田 智行、太田 昌樹、福田 延昭、
広井 知歳、小林 洋明
- IX-15 亜急性心筋梗塞後に発症したPost-cardiac injury syndromeの一例
(日本医科大学付属病院 循環器内科) 中阿地啓悟
村田 広茂、高橋 應仁、光永 りさ、田中 匡成、
蜂須賀誠人、藤本 雄飛、野間さつき、小宮山英徳、
時田 祐吉、淀川 顕司、岩崎 雄樹、清水 渉

IX-16 維持透析開始後長期間を経て心タンポナーデを来した尿毒症性心膜炎の一例
(横浜市立みなと赤十字病院 循環器内科) 工藤 侃
原 果里奈、須藤 洸司、小田 惇仁、橋 伸一、
佐川雄一朗、重田 卓俊、中村 玲奈、浅野 充寿、
志村 吏左、鈴木 秀俊、倉林 学、山内 康熙、
沖重 薫
(東京医科歯科大学 循環制御内科学) 笹野 哲郎

IX-17 左室後壁心外膜血腫 (pericardial hematoma) の増大をみた1症例
(千葉西総合病院 循環器内科) 葉山 泰史
山元 昇栄、三角 和雄、倉持 雄彦、飯塚 大介、
牧野 仁人、西岡 道知、新谷 政樹、高橋茉理瑛、
佐野 拓真、田口 重文
(千葉西総合病院 心臓血管外科) 安元 勇人、中山 泰介、伊藤雄二郎、中村 喜次

セッションⅡ-2

心膜・腫瘍2

IX-18 多発動脈塞栓症で発症し心房細動合併収縮性心膜炎の診断に難渋した一例
(東京都立墨東病院 循環器科) 大竹 正紘
向田 拓人、佐藤 慎吾、長友 理樹、
大河内実希子、加藤 太治、木村 裕美、
青山 拓令、平野 仁士、大橋 浩一、高山 陽、
木全 啓、服部 愛、黒木 識敬、安倍 大輔

IX-19 右房穿孔と感染性心内膜炎を合併したParvimonas micraによる細菌性心外膜炎の1例
(東京都立多摩総合医療センター 循環器内科) 三輪 裕仁
森永 弘章、守井 悠祐、中村 真、櫻井進一朗、
岡部はるか、関根 拓郎、尾川 理沙、山本 恵理、
宮部 倫典、伊東 勘介、大塚 佳満、安西 耕、
西村 睦弘、三ツ橋佑哉、加藤 賢、田中 博之
(東京都立多摩総合医療センター 心臓血管外科) 大原 弘喜、野中 隆広、久木 基至、二宮 幹雄

IX-20 心膜切除術が必要となった急性化膿性心外膜炎の一例
(国立研究開発法人 国立国際医療研究センター 循環器内科) 峯本 麻由
三宅 渉、中川 堯、久保田修司、岡崎 徹、
山本 正也、原 久男、廣井 透雄
(国立研究開発法人 国立国際医療研究センター 心臓血管外科) 田村 智紀、宝来 哲也

IX-21 心タンポナーデに至らずCS1の心不全を発症した大量心嚢水貯留の一例
(草加市立病院) 菅原 祥子
林 洋介、笠野 健介、須藤 悠太、古浦 賢二、
大西健太郎、石丸 剛、岡田 寛之、稲垣 裕、
土信田伸夫、櫻井 翔吾、田村 清、丸山 俊之

IX-22 特発性心膜炎に対する抗炎症薬を早期中止したことで再発をきたし難治性となった一例
(独立行政法人 国立病院機構 横浜医療センター 循環器内科) 松井 優子
坂井 政之、小林 献、大藪謙次郎、吉川 将史、
小池 俊晴、齋藤 貴士、森 文章

セッションⅢ

弁膜症

- IX-23 重度僧帽弁閉鎖不全症で入院し術中所見から亜急性心筋梗塞による乳頭筋断裂と診断した一例
(平塚共済病院) 小田中勇樹
竹川 弘毅、秋吉 基光、荒木 恵子、中野 国晃、
加藤 信孝、村本 容崇、大西 隆行、小林 一士、
大西 祐子、佐藤 康弘
- IX-24 3DCTが診断に有用であった人工弁不全の一例
(榑原記念病院 循環器内科) 四倉 玲
井口 信雄、泉 佑樹、樋口 亮介、磯部 光章
(榑原記念病院 心臓血管外科) 恩賀 陽平、大野 真、在國寺健太、下川 智樹
(榑原記念病院 放射線科) 蟹沢 充、高田 香織
- IX-25 大動脈四尖弁に伴う重症大動脈弁閉鎖不全症の1例
(順天堂大学医学部付属浦安病院 循環器内科) 平林 洸紀
大内 翔平、宮崎 哲朗、阿部 寛史、粕谷 宏樹、
杉田有里那、矢部 功祐、柿原 翠、牧 正彬、
島井 亮輔、磯貝 浩之、和田 剛、尾崎 大、
安田 友紀、小田切史徳、横山 健、戸叶 隆司
- IX-26 経皮的冠動脈形成術(PCI)後にバルーン大動脈弁形成術(BAV)を施行した並存疾患を有する大動脈弁狭窄症の1例
(新潟大学医歯学総合研究科 循環器内科学) 土谷 浩気
米山晋太郎、渡辺 光洋、久保田直樹、大久保健志、
保屋野 真、木村 新平、柳川 貴央、柏村 健、
尾崎 和幸
- IX-27 急性心不全の悪化を繰り返したReversible Mitral regurgitationの1症例
(千葉西総合病院 循環器内科) 山崎智永実
葉山 泰史、三角 和雄、倉持 雄彦、飯塚 大介、
牧野 仁人、西岡 道知、新谷 政樹、山元 昇栄、
高橋茉理瑛、佐野 拓真、田口 重文
(千葉西総合病院 心臓血管外科) 黒田 美穂、中村 喜次
- IX-28 僧帽弁置換術後に血栓による僧帽弁の狭窄をきたし心不全となった一例
(株式会社日立製作所 ひたちなか総合病院) 磯崎 大寿
崔 星河、宇佐美恭平、川村 龍、山内 孝義、
悦喜 豊
- IX-29 連合弁膜症を合併し、2弁置換術を必要とした原発性抗リン脂質抗体症候群の1例
(日本赤十字社医療センター 循環器内科) 柳沢 賢人
黒木菜見人、小林 裕貴、笠原 智大、福山 真史、
山本 溪介、瀧澤 雅隆、魚住 博記、池ノ内 浩
(日本赤十字社医療センター 心臓血管外科) 鈴木登士彦、田中 慶太、小林城太郎
- IX-30 超低心機能低下症例に対する高カリウム低温無負荷心静止によるMICS僧帽弁形成術の一例
(ニューハート・ワタナベ国際病院 心臓血管外科) 瀬口 龍太
捶井 達也、堀川 貴史、木内 竜太、富田 重之、
大塚 俊哉、渡邊 剛

セッションⅣ

不整脈

IX-31 ICD頻回作動後に生じたIABP不応心原性ショックに対しIMPELLA補助下でVTアブレーションを施行し救命した症例

(筑波大学 医学医療系 循環器内科) 平谷 太吾
佐藤 希美、木全 啓、小松 雄樹、山本 昌良、
野上 昭彦、家田 真樹

IX-32 経食道心エコー検査中の頻拍発作時に左心耳内もやもやエコーの出現、消失を認めた1例

(杏林大学 医学部 循環器内科) 長江 篤季
坂田 好美、満田 寛子、伊藤準之助、南島 俊徳、
井坂 葵、合田あゆみ、河野 隆志、副島 京子

IX-33 陳旧性心筋梗塞合併心内修復術後先天性心疾患症例の心室頻拍にアブレーションが有効であった一例

(東京大学医学部附属病院 循環器内科) 清水 悠
関 光里、中西 弘毅、齋藤 暁人、小島 敏弥、
波多野 将、小室 一成

IX-34 High power short duration肺静脈隔離術により粘膜障害をきたした右側偏位食道を有した一例

(土浦協同病院 循環器内科) 佐藤 慶和
久佐 茂樹、藤 云、平野 秀典、大屋 寛章、
原 聡史、三輪 尚之、山尾 一哉、家坂 義人、
蜂谷 仁

IX-35 Barlow症候群を背景に心室細動を発症した若年者の一例

(千葉大学医学部附属病院 循環器内科) 松本 忠浩
岡田 将、佐々木晴香、近藤 祐介、高岡 浩之、
北原 秀喜、小林 欣夫
(船橋市立医療センター 循環器内科) 林 智彦

IX-36 完全右脚ブロックにマスクされた下壁誘導にJ波を伴うBrugada症候群の一例

(群馬大学 医学部附属病院 循環器内科) 松本 直大
小針 堯司、長谷川 寛、田村峻太郎、中島 忠、
金古 善明、倉林 正彦

IX-37 Manifest entrainmentを示したmicroentrant心房頻拍

(神奈川県立循環器呼吸器病センター) 井口 公平
関井 隆介、児玉 翔、木下 恵、硯川 佳祐、
東 真伊、中山 尚貴、福井 和樹

IX-38 発作性心房細動時に失神を繰り返した起立性低血圧の1例

(東京慈恵会医科大学 葛飾医療センター 循環器内科) 安武 れい
池脇 宏嗣、塚田 尚子、野村 充希、池田 和也、
磯谷 亮太、木下 浩司、長谷川 潤、谷川 真一、
松尾征一郎、関 晋吾
(東京慈恵会医科大学 循環器内科) 吉村 道博

セッションV
心筋炎・心筋症

IX-39 末梢血好酸球上昇を伴わない好酸球性心筋炎の一例
(国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院 循環器内科)

張 峻模
藤井 洋之、三須 彬生、大森 真理、立石 遼、
金田 俊雄、山上 洋介、島田 博史、萬野 智子、
一色 亜美、木村 茂樹、清水 雅人、鈴木 誠
(東京医科歯科大学 循環器内科) 笹野 哲郎

IX-40 心膜・心筋炎を合併した血管型パーチェット病の1例
(順天堂大学医学部附属順天堂医院 循環器内科)

辻村祐一郎
深瀬 達也、遠藤 裕久、西山 大樹、高須 清、
土肥 智貴、藤本進一郎、島田 和典、南野 徹

IX-41 褐色細胞腫クリーゼに伴う特異な壁運動障害を認めた一例
(国立国際医療研究センター病院 循環器内科)

遠藤 寛之
三宅 渉、葉山 裕真、久保田修司、中川 堯、
岡崎 徹、山本 正也、原 久男、廣井 透雄
(国立国際医療研究センター病院 肝胆膵外科)
(国立国際医療研究センター病院 糖尿病内分泌代謝科) 竹村 信行
田邊 晶代

IX-42 左室瘤を合併した心尖部肥大型心筋症に対して心房同期心室ペースメーカー療法を行った1例
(獨協医科大学 心臓・血管内科/循環器内科)

飯田圭太生
豊田 茂、北川 善之、上嶋 亨、齋藤 郁太、
西野 節、佐久間理史、井上 晃男、
(結城病院) 大木 岳
(群馬県立心臓血管センター) 内藤 滋人

IX-43 たこつば型心筋症・完全房室ブロックを契機に診断された心サルコイドーシスの一例
(済生会横浜市東部病院)

瀬戸長雄介
伊藤 良明、山脇 理弘、小林 範弘、阪本 泰成、
平石 真奈、毛利 晋輔、堤 正和、本多 洋介、
牧野 憲嗣、水澤 真文、白井 重光、山口 航平、
中野 孝英、安部香緒里、岸田登志彦、深川 知哉、
香西 祐樹、合田秀太郎、吉田龍太郎

IX-44 補充不安定は完全房室ブロックによりたこつば型心筋症を発症した一例
(長岡中央総合病院)

落合 幸江
松尾 佑治、田川 実、中村 裕一

セッションVI
デバイス

IX-45 ICM(植込み型心電モニタ)により失神の原因がhigh rateの発作性上室頻拍と判明した一例
(A O I 国際病院)

米内 竜
川島 朋之、前田 真吾、川端美穂子、平尾 見三
(南八王子病院) 新 博次

IX-46 ペースメーカーリードによると考えられた慢性胸痛を生じた一例
(東京女子医科大学病院 循環器内科)

吉川 領亮
後藤 雅之、樋口 諭、服部 英敏、菊池 規子、
鈴木 敦、庄田 守男、萩原 誠久

IX-47 遅発性のリード穿孔により心タンポナーデをきたした一例
(昭和大学 藤が丘病院 循環器内科) 手塚 隆弘
土至田 勉、谷崎 友香、亀田 俊吾、倉田 征昭、
若月 大輔、浅野 拓、江波戸美緒、鈴木 洋

IX-48 IMPELLA挿入後に大動脈弁損傷を伴った急性心筋梗塞の一例
(済生会横浜市東部病院) 香西 祐樹
伊藤 良明、酒井 毅、山脇 理弘、小林 範弘、
平石 真奈、毛利 晋輔、阪本 泰成、堤 正和、
本多 洋介、牧野 憲嗣、水澤 真文、白井 重光、
山口 航平、中野 考英、岸田登志彦、深川 知哉、
瀬戸長雄介、合田秀太郎

IX-49 リードレスペースメーカーから心臓再同期療法へのupgradeが有効であった一例
(聖マリアンナ医科大学 循環器内科) 若林 隼人
佐藤 如雄、鈴木 規雄、村松 和樹、亀島はる香、
石橋 祐記、出雲 昌樹、原田 智雄、明石 嘉浩

セッションⅦ 心不全

IX-50 骨形成不全症を伴う低心機能重度ARに対しMICS-AVRを施行した一例
(東京ベイ・浦安市川医療センター 心臓血管外科) 柳澤 裕美
伊藤 丈二
(東京ベイ・浦安市川医療センター 心臓血管外科、虎の門病院 循環器センター外科) 田端 実

IX-51 上室性頻拍を契機に右-左シャントの増悪を呈し呼吸状態の増悪をきたしたEbstein病の1例
(東京都保健医療公社大久保病院) 竹田 康佑
岡野 喜史、山崎 優華、宮原 大輔、森山 優一、
谷井 博亘、櫻田 春水

IX-52 両心室ペーシング率の向上にイバブラジンが有効であった重症心不全の1例
(成田赤十字病院 血管内治療内科) 立林 卓
大野 祐司、吉野 裕、山田 興、青木 康大、
橋口 直貴

IX-53 長期勾留中の若年男性に生じた衝心脚気の一例
(けいゆう病院 循環器内科) 中村 匡
菅野 康夫、扇野 泰行、渡邊 心翼、千葉圭二郎、
永見 圭一

IX-54 広範な前壁中隔STEMIの血行動態改善にivabradineが有効であった一例
(JCHO東京新宿メディカルセンター 循環器内科) 斉藤 哲也
齋藤 道城、今村 堂大、竹山 誠、吉田 えり、
檜崎 容史、谷地 織、大道 近也、綾部 征司

セッションⅧ

末梢血管・大血管

IX-55 浅大腿動脈に対する血管内治療慢性期に皮膚-浅大腿動脈瘻を形成し大量出血を来たした症例

(済生会横浜市東部病院)

合田秀太郎

伊藤 良明、平野 敬典、山脇 理弘、荒木 基晴、
小林 範弘、毛利 晋輔、阪本 泰成、堤 正和、
本多 洋介、牧野 憲嗣、水澤 真文、白井 重光、
中野 孝英、岸田登志彦、深川 知哉、香西 祐樹、
瀬戸長雄介

IX-56 急速に腎機能悪化を来した機能的片腎患者に対し経皮的腎動脈ステント留置術を施行し透析を離脱し得た一例

(横浜労災病院 循環器内科)

植田 智美

青木 元、田中 真吾、柚本 和彦

(横浜労災病院 腎臓内科)

潮 雄介

(横浜労災病院 内分泌・代謝内科)

堀越 博文

IX-57 Impellaを要した重症心不全加療中に、非閉塞性腸管虚血(NOMI)をきたした一例

(東京大学医学部附属病院 循環器内科)

鈴木 高明

小関 啓太、新保 麻衣、加門 辰也、菊池 宏信、
清末 有宏

(東京大学医学部附属病院 心臓外科)

嶋田 正吾、小野 稔

(東京大学医学部附属病院 病理診断科)

井手山 真、牛久 綾、牛久 哲男

IX-58 大動脈縮窄症類似の病態を有する妊婦の一例

(聖路加国際病院 循環器内科)

村島 侑子

児玉 浩幸、木島 康文、椎名 由美、小宮山伸之、
丹羽公一郎

IX-59 高度の動脈硬化性病変を有するapicoaortic bypass手術後の一剖検例

(公立藤岡総合病院 循環器内科)

伊藤 望

小野 洋平、植田 哲也、間渕由紀夫、井上 雅浩、
鈴木 忠

(伊勢崎市民病院 循環器内科)

高松 寛人

セッションⅨ

肺高血圧・静脈

IX-60 肺血栓塞栓症を合併した膝窩静脈静脈性血管瘤の1例

(埼玉医科大学国際医療センター 心臓内科)

熊井戸悠喬

豊崎 雄一、小國 哲也、杉 佳紀、山田 良大、
関 要、長谷川早紀、江木 竜太、中埜信太郎、
村松 俊裕

IX-61 重症呼吸不全に対してVV ECMOを要した肥満低換気症候群の一例

(横須賀市立うわまち病院循環器内科)

笠原 悠佑

荒木 浩、岩澤 孝昌、浦 穂高、吉田 稔、
岡田 拓也、泊口 哲也、島村 浩正、黒木 茂、
水政 豊、沼田 裕一

IX-62 左心不全が合併した強皮症関連肺高血圧症の増悪に対してセレキシパグの投与中止が有効であった一例
(東京慈恵会医科大学附属第三病院 循環器内科) 宿谷 結希
横山 賢一、香山 洋介、船木 隆司、王 琢矢、
山田 崇之、滝沢信一郎、森 力、芝田 貴裕
(東京慈恵会医科大学附属病院 循環器内科) 吉村 道博

IX-63 非シャント側の中心静脈血栓性閉塞により生じた重度上肢浮腫に対してステント留置が奏功した1例
(総合高津中央病院 心臓血管センター) 高木 友誠
宮本 明、吉田 善紀、丸山 高、久原 亮二、
秋田 孝子、福田 正浩、山内 靖隆

IX-64 側副血行路を伴うiliac compression syndromeに合併した内服抵抗性DVTに対しballoonとCDTで加療した一例
(聖隷横浜病院) 宮崎 良央
福田 正、山田 亘、眞壁 英仁、河合 慧、
中島 啓介、新村 剛透、芦田 和博

セッションX 心内膜炎・その他

IX-65 自己弁の感染性心内膜炎治癒後に左房解離を認めた一例
(順天堂大学医学部附属順天堂医院循環器内科) 真 優スレーシュワル
宮崎彩記子、森本 良子、栗田 梓、カネコ智洋、
代田 浩之
(順天堂大学医学部附属順天堂医院心臓血管外科) 遠藤 大介、天野 篤

IX-66 僧帽弁置換術・CRT-D植え込み後患者の感染性心内膜炎に対し、抗菌薬治療が奏功し手術を回避し得た1例
(東京都立広尾病院 循環器科) 高橋 怜
土山 高明、原野 義大、辻畑志帆子、竹田 康佑、
中村 真、山岡広一郎、新井 智之、川尻 紘平、
田邊 翔、時岡紗由理、稲垣 大、吉田 精孝、
木村 高志、高橋 正雄、増田 怜、北村 健、
北條林太郎、深水 誠二、洪井 敬志

IX-67 突然死をきたした非細菌性血栓性心内膜炎の一例
(NTT東日本関東病院) 岩城 大輔
神馬 崇宏、山崎 允喬、西條 大悟、石沢 太基、
澤田 直子、持田高太郎、柳澤 智義、生富 公康、
佐藤 高栄、松下匡四郎、大西 哲、山崎 正雄

IX-68 脳梗塞による右片麻痺に対するリハビリテーション中に発見されたPlatypnea orthodeoxia syndrome(POS)の1例
(東京都健康長寿医療センター) 橘 昌利
村田 哲平、宮脇 正次、佐久間隆貴、小松 俊介、
青山 里恵、小川 雅史、石山 泰三、石川 譲治、
坪光 雄介、武田 和夫、藤本 肇、原田 和昌

IX-69 抗凝固療法下に発症した両心房内血栓症の一例
(北里大学病院 循環器内科) 橋村 美保
富井大二郎、橋本 拓弥、飯倉早映子、亀田 良、
小坂橋俊美、阿古 潤哉

IX-70 乾酪様僧帽弁輪石灰化(caseous calcification of the mitral annulus: CCMA)の2症例

(順天堂大学 医学部 循環器内科)

阿部 圭希

金子 智洋、遠藤 裕久、砂山 勉、土井信一郎、

福島 理文、宮崎彩記子、土肥 智貴、南野 徹

(順天堂大学 医学部 心臓血管外科)

遠藤 大介、浅井 徹、天野 篤

一般社団法人日本循環器学会 支部規程

(総則)

第1条 この規程は、一般社団法人日本循環器学会（以下「日本循環器学会」という）各地区の支部（以下「各支部」という）の遵守すべき事項を定める。

(事務局)

第2条 各支部の事務局は、日本循環器学会定款施行細則に定める地区に置く。

(目的および事業)

第3条 各支部は日本循環器学会の目的達成のため次の事業を行う。

- 1) 地方会の開催
- 2) 日本循環器学会国際トレーニングセンター（JCS-ITC）としての講習会等の開催
- 3) 日本循環器学会本部からの委託事項の処理
- 4) その他目的の達成に必要な事業

(会員)

第4条 各支部の会員は、当該地区に所属する日本循環器学会の正会員および準会員とする。

2. 支部名誉会員/支部特別会員/支部顧問等の設置は各支部役員会で定めることとする。

(社員)

第5条 社員とは、日本循環器学会定款及び定款施行細則に基づき選出された各支部に所属する社員をいう。

(支部長)

第6条 各支部に支部長1名を置く。

2. 支部長は定款に基づき選出された支部所属理事の協議で決定し、支部社員総会において報告する。
3. 支部長は支部を統括する。
4. 支部長の任期は2年とし、再任を妨げない。

(支部役員)

第7条 各支部に支部役員を若干名置く。

2. 支部役員は支部所属理事及び支部長の推薦で選出された会員とし、支部長を除いた支部役員を支部社員総会で承認する。
3. 支部役員は、地方会、事業計画・報告、予算・決算、その他支部長の求めに応じて支部運営にあたる。
4. 支部役員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(支部監事)

第8条 各支部に支部監事を若干名置く。

2. 支部監事は支部長が候補者を会員から推薦で選出し、支部社員総会で承認する。
3. 支部監事は支部の監査を行い、不正の事実があれば支部社員総会及び日本循環器学会本部に報告する。
4. 支部監事の任期は2年とし、連続して就任できる期数は3期までとする。

(支部幹事)

第9条 各支部に支部幹事を若干名置く。

2. 支部事務局担当幹事およびJCS-ITC担当幹事の設置は必須とする。
3. 支部幹事は支部長が会員から選出する。
4. 支部幹事は支部長を補佐し、役員会/社員総会において会計報告及びJCS-ITC業務の報告等を行う。
5. 支部幹事の任期は支部長の任期に準じ、再任を妨げない。

(支部評議員)

第10条 各支部に支部評議員を置くことができる。

2. 支部評議員は会員から選出する。
3. 支部評議員は支部業務を補佐する。
4. 支部評議員の選出方法/任期/定年等は各支部役員会で定めることとする。

(地方会会長)

第 11 条 各地方会に会長 1 名を置く。

2. 地方会会長は支部役員会の推薦で選出し、支部社員総会において承認する。
3. 地方会会長は地方会を主催し、その経理/事業内容を支部役員会及び支部社員総会に報告する。
4. 地方会会長の任期は、主催地方会にかかる業務が完了するまでとする。

(支部役員会)

第 12 条 支部役員会は、支部役員で構成する。

2. 支部役員会は年 1 回以上開催し、主に以下の事項を扱う。
 - 1) 事業計画・事業報告及び予算・決算の承認
 - 2) 地方会会長の選出
 - 3) 支部運営上重要な規則の承認
 - 4) その他本支部の運営に必要な事項の確認 (JCS-ITC 報告など)
3. 予算もしくは事業計画に大幅な変更が見込まれる場合には臨時支部役員会を開催しなければならない。
4. 支部役員会は支部長が招集し議長となる。ただし支部長に事故あるときは他の支部役員が招集する。この場合、議長は支部役員の協議により選出する。
5. 支部役員会は過半数が出席しなければ、その議事を決議できない。ただし、当該議事につき予め書面をもって意思を表示したもの、および他の支部役員を代理人として表決を委任したものは出席者とみなす。
6. 支部役員会の議事は出席者の多数決をもって決し、可否同数の時は議長の決するところによる。

(支部社員総会)

第 13 条 支部社員総会は、社員で構成する。

2. 支部社員総会は年 1 回以上開催し、主に以下の事項を扱う。
 - 1) 事業計画・事業報告及び予算・決算の確認
 - 2) 決定された支部長の確認
 - 3) 支部役員・支部監事・地方会会長の承認または解任
 - 4) 支部運営上重要な規則の確認
 - 5) その他本会の運営に必要な事項 (JCS-ITC 報告など)
3. 支部社員総会は、支部長が招集し、議長となる。ただし支部長に事故あるときは他の支部役員が招集する。この場合、議長は支部役員の互選により選出する。
4. 支部社員総会は支部社員の過半数が出席しなければ、その議事を決議できない。ただし、当該議事につき予め書面をもって意思を表示したもの、および他の支部会員を代理人として表決を委任したものは出席者とみなす。
5. 支部社員総会の議事は出席者の多数決をもって決し、可否同数の時は議長の決するところによる。

(支部評議員会)

第 14 条 支部評議員会は、支部評議員で構成する。

2. 支部評議員会は年 1 回以上開催し、以下の事項の報告を受ける。
 - 1) 予算・決算
 - 2) 事業計画および事業報告
 - 3) 地方会会長及び地方会開催地
 - 4) 支部長の選出結果
 - 5) その他本会の運営に必要な事項 (JCS-ITC 報告など)
3. 支部評議員会は、支部長が招集し、議長となる。ただし支部長に事故あるときは他の支部役員が招集する。この場合、議長は支部役員の協議により選出する。

(支部事務局業務)

第 15 条 支部事務局業務とは、支部役員会、支部社員総会、支部評議員会の運営、各事業の補助等をいう。

2. 支部事務局業務は、原則支部年会費収入の範囲内で収支均衡に努めなければならない。
3. 支部事務局業務にかかる経費精算の職務権限について、予算内経費精算は、支部事務局担当幹事による確認を必要(事後確認可)とする。予算枠外使用については、20 万円未満が支部長承認、20 万円以上が支部役員会承認を事前に必要とする。
4. 各支部は全事業の会計報告を毎月すみやかに本部事務局に報告することとする。

(地方会)

第16条 各支部は地方会を年1回以上開催する。

2. 地方会に演題を提出する者は原則として会員でなければならない。
3. 地方会収支について、原則、収入の範囲内で費用支出を行うこととし、収支均衡に努めなければならない。
4. 地方会において新たな試みを実施する場合は、事前に地方会会長と支部長で協議を行うこととする。
5. 地方会における参加費等の現金取り扱いについて、不正や過誤が発生しない体制を整えなければならない。
6. 地方会の経費精算は、地方会会長もしくは会長が定めた者が内容を確認したうえで実施する。なお全ての精算を原則地方会終了後2ヵ月以内に完了させること。

(JCS-ITC 講習会)

第17条 各支部はJCS-ITC講習会をJCS-ITC担当幹事が計画を取り纏め、開催する。

2. 講習会収支について、原則収入の範囲内で費用支出を行うこととし、収支均衡に努めなければならない。
3. JCS-ITC講習会に関わる経費精算の職務権限について、予算内経費精算は、JCS-ITC担当幹事による確認を必要(事後確認可)とする。予算枠外使用については、20万円未満が支部長承認、20万円以上が支部役員会承認を事前に必要とする。

附則

- 1) 本規則は、平成27年2月1日から試行期間とし、平成28年4月1日から完全実施とする。
- 2) この規程の改廃は日本循環器学会理事会の議決を経なければならない。

支部コンプライアンス・倫理規程

(目的)

第1条 この規程は、一般社団法人日本循環器学会全支部（以下「支部」という）におけるコンプライアンスに関し基本となる事項を定め、もって健全で適正な学会運営及び社会的信頼の維持に資することを目的とする。

(定義)

第2条 この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- 1) コンプライアンスとは、法令、各支部の諸規則を遵守することをいう。
- 2) 支部役職者とは、支部に所属する支部長・支部役員・支部監事・支部幹事・地方会会長をいう。
- 3) 支部職員とは、支部の事務を担当する職員をいう。
- 4) コンプライアンス事案とは、支部の構成員にかかわる法令又は定款等の本学会諸規則や支部会則等に違反、または違反するおそれのある事案をいう。

(支部役職者及び支部職員の責務)

第3条 支部役職者・支部職員は、支部の定める理念および目標を実現するため、それぞれの責任を自覚し、コンプライアンスの重要性を深く認識するとともに、人権を尊重し、高い倫理観を持って行動しなければならない。

2. 支部役職者・支部職員は、次に掲げることを理由として、自らのコンプライアンス違反行為の責任をのがれることはできない。

- 1) 規程について正しい知識がなかったこと
- 2) 規程に違反しようとする意思がなかったこと。
- 3) 支部の利益に資する目的で行ったこと

附 則

- 1) 本規則は、平成27年2月1日から試行期間とし、平成28年4月1日から完全実施とする。
- 2) この規程の改廃は日本循環器学会理事会の議決を経なければならない。

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部運営内規

(総則)

第1条 この内規は、一般社団法人日本循環器学会 支部規程を関東甲信越支部（以下「本支部」という。）において運用するために必要な事項を規定し、円滑な学会活動を推進することを目的とする。

(支部事務局)

第2条 本支部における支部事務局を東京都千代田区霞が関 1-4-2 大同生命霞が関ビル 日本コンベンションサービス株式会社内に設置する。

(支部長)

第3条

- 2年毎に行われる理事選出選挙の後、第6条2項に沿い支部長を決定するが、支部長の任期開始日は7月1日からとする。
- 支部長は日本循環器学会の関東甲信越地区で選出された理事の互選によって決定され、当該年度における本支部の事務を処理する。
- 支部規程第6条の4項に沿い、支部長の任期は2年とし再任を妨げないとするが、本支部における支部長の連続して就任できる期数は2期（通算4年）までとする。
- 支部長は、「支部コンプライアンス・倫理規定」を確認し、その内容を遵守しなければならない。

(支部役員)

第4条

- 支部役員は、支部規程第7条1項に沿い、支部所属理事の他、支部に所属する社員から支部長が推薦した者が務める。
- 支部役員の定数は、本支部においては16名程度とする。内訳としては支部に所属する理事（関東甲信越地区、女性、小児科、外科）とその他の役員とする。
- 支部役員は、関東甲信越地区の理事が推薦する、教授または部長以上の支部所属の社員とし、任期2年で再選は妨げない。関東甲信越地区理事による理事会にて決定する。
- 支部役員は、「支部コンプライアンス・倫理規定」を確認し、その内容を遵守しなければならない。

(支部監事)

第5条

- 支部規程第8条1項に定める支部監事の定数は、本支部においては2名とする。
- 支部規程第8条2項に定める支部監事の選出について、支部長が候補者を社員から選出することとする。なお独立性を鑑み、支部役員、支部幹事との兼務は不可とする。
- 監事は本支部の会計その他の事務遂行状況の監査を行うものとする。その任期は2年とし、再任はさまたげない
- 支部監事は、「支部コンプライアンス・倫理規定」を確認し、その内容を遵守しなければならない。

(支部幹事)

第6条

- 支部規程第9条に定める支部幹事は、本支部においては支部事務局担当幹事1名、JCS-ITC 講習

- 会担当幹事 1 名、ダイバーシティ推進委員会担当幹事 1 名とし、支部役員との兼務も可能とする。
3. 支部幹事は、「支部コンプライアンス・倫理規定」を確認し、その内容を遵守しなければならない。
 4. 支部事務局担当幹事ならびに JCS-ITC 担当幹事は、それぞれの業務における月度毎の収支状況をモニタリングし、予算進捗確認を行わなければならない。予算に対し収支悪化の場合は、対策を検討し支部長へ報告すること。また収支改善の場合は、その資金活用方法について検討し支部長へ報告することとする。
 5. 支部幹事は、会員の中から選出することとし、関東甲信越地区理事による理事会にて決定する。
 6. 支部幹事は、それぞれの業務において投資（JCS-ITC 講習会用のマネキン、事務局運営用のパソコン等）が必要な場合は、事業計画、予算において明確化し、支部役員会・支部社員総会において発言し、承認を得なければならない。

（支部評議員）

第 7 条

2. 支部規程第 10 条に定める支部評議員は、現任の支部評議員の推薦により選出し、支部評議員会において承認する。
3. 推薦人は、支部評議員会予定日より 15 日以前に候補者の推薦書を支部事務局へ提出する。
4. 有資格者でありながら推薦人が見当たらない場合は、支部長が推薦人となることが出来る。
5. 支部評議員の被推薦資格は、以下の 3 項をすべて満たすこととする。
 - 1) 65 歳以下で 7 年以上日本循環器学会会員であること
 - 2) 講師又は医長以上である者、または、本会学術集会において特別講演講師、教育講演講師、シンポジウム、パネルディスカッション、ファイヤーサイドカンファランスの演者を担当したことがあるもの
 - 3) 本支部地方会において過去 5 年間に 3 演題以上発表（共同演者でよい）していること。但し、基礎研究者・外科医・小児科医については別途考慮する。

（地方会会長）

第 8 条

2. 支部規程第 11 条に定める地方会会長の選出方法は以下のとおりとする。
 - 1) 資格 : 教授または部長以上の本支部評議員
 - 2) 推薦方法 : 評議員による他薦または自薦に基づき、支部長が提案し支部役員会で選出の上、支部社員総会で承認する。
 - 3) 推薦時期 : 支部役員会開催予定日より 15 日以前に支部長に推薦書を送付する。
3. 地方会会長は、「支部コンプライアンス・倫理規定」を確認し、その内容を遵守しなければならない。
4. 地方会会長は、「臨床研究の利益相反に関する共通指針の細則」に定められた様式の利益相反の自己申告書を支部長経由で本会へ提出しなければならない。
5. 地方会会長は、地方会開催場所・日程の決定を行う。
6. 地方会の主題および演題の選定および採択は、会長が裁量する。
7. 地方会実施にあたり、会長の推薦にて会長校事務局長を任命してよい。会長校事務局長は、会長からの指示に基づき、地方会運営を補助することとする。
8. 地方会運営にあたる企画会社手数料が過多とならないことを事前に確認しなければならない。
9. 地方会開催にあたり収入の受入れ、費用の精算の為、会長名において専用口座を開設する。口座

開設と同時にキャッシュカードを作成する場合は、会長から使用者・保管者を指名し、それ以外のもので利用出来ない体制を構築しなければならない。

10. お届け印、通帳は会長または会長が指名した者が保管する。保管にあたっては必ず施錠し、本人のみが解錠出来る体制としなければならない。

(支部役員会、支部社員総会、関東甲信越地区理事会、支部評議員会)

第9条

2. 支部規程第12条に定める支部役員会は、年1回開催とする。
3. 支部規程第13条に定める支部社員総会は、年1回開催とする。
4. 関東甲信越地区理事による理事会は、年2回開催とする。
5. 支部評議員会は、年3回開催とする

(支部事務局業務)

第10条

2. 支部規程第15条における支部事務局業務は、事務局担当幹事を補佐し、円滑に業務を遂行することを目的として、本業務に従事する人員を支部役員会の承認のもと採用しても構わない。雇用条件の変更がある場合は、支部役員会での承認を必要とする。
3. 上記1項の方法以外に、外部の業者や個人への業務委託を行ってもよい。委託にあたっては支部との間に契約が必須となる。(契約書において、資金管理面での過誤が無いように努めること、不正を行わないことを明記し、不正を行った場合の損害賠償を行う旨、記載すること。)

(地方会)

第11条

2. 支部規程第16条1項に定める地方会について、本支部は毎年4回地方会を開催する。
3. 地方会の名称は、第〇〇回日本循環器学会関東甲信越地方会とする。
4. 本支部地方会に関する事項は、本会の会告及びその他の手段により会員に広報する。また、その抄録データを本会に提出する。
5. 地方会において市民公開講座及び託児室設置を実施する場合は、本支部より、助成金90万円を地方会事務局に交付する。助成金は、経費内訳及び証憑書類の提出を持って交付するものとする。
6. 地方会の参加費は要領に別途定めたとおりとするが、参加費を変更する場合は支部役員会での承認を必要とする。
7. 地方会での寄付の受入は、「寄付金取扱規程」に基づき対応する。
8. 地方会における華やかな懇親会の開催を禁じる。
9. 地方会当日の現金(参加費)の取扱いにおいて、不正や過誤が発生しないよう関係するスタッフの教育を十分行わなければならない。
10. 地方会経費の精算は、リスク管理の観点から現金での精算を禁じ、原則請求書対応とする。請求書対応が難しい場合は、企画会社・スタッフによる立替精算を行い、後日レシートや領収書をもとに精算する。
11. 地方会終了後、余剰金が発生した場合、支部管轄の地方会口座に振込し、次回以降の地方会補助金とする。その後、口座は解約する。
12. 非会員の招請者、支部役員への待遇については要領に別途定めたとおりとするが、これ以外の対応を行う場合は、支部役員会での承認が必要とする。

13. 地方会時の専門医単位登録について、本会から明示された「単位登録の運営方法について」に沿って対応しなければならない。
14. 地方会演者は、発表時に定められた様式「利益相反の自己申告書」を提示する必要がある。
15. 本支部地方会会長は、若手循環器専門医の育成を目的として、Student Award、Resident Award、Clinical Research Award、Case Report Award を設け、各賞最優秀演題発表者1名、優秀賞2名を顕彰する。実施要領は別途定めた通りとする。

(JCS-ITC 講習会)

第12条

2. 年4回のインストラクター一覧更新時に、本会事務局より受領したインストラクター一覧を支部長ならびに幹事に提出すること。
3. JCS-ITC 講習会の事務業務（受講料受付・謝金や立替金の精算 等）については支部事務局において実施する。ただし業務の円滑化を目的として、外部の業者や個人への業務委託を行ってもよい。委託にあたっては支部との間に契約が必須となる。（契約書において、資金管理面での過誤が無いように努めること、不正を行わないことを明記し、不正を行った場合の損害賠償を行う旨、記載すること。）
4. コース開催日程は、各支部ホームページに掲載することとする。
5. 業務管理を明確化することを目的として、JCS-ITC 業務専用の口座を開設してよい。専用口座の取扱については、要領に別途定めたとおり慎重に行う。
6. コース開催時にコースディレクター等が立替精算をした場合は要領に別途定めたとおりに行い、不必要な経費支出は慎むこと。
7. コース終了後、コースディレクターは参加インストラクター・タスクを一覧化し（以下インストラクター・タスク一覧）、各自立替えしたコース開催地までの交通費を纏め、支部事務局（または外部委託している業者・個人）へ提出しなければならない。また、受講料収益と使用経費を一覧化し、コース毎の収支実績を作成し、合せて支部事務局へ提出する。
8. 各コースディレクターがコースに必要な資金を事前に仮払金として引出して使用する場合は、予め仮払金申請書を作成し、JCS-ITC 幹事のメール承認を要する。
なお、ITC 幹事がコースディレクターとなる場合は、支部長のメール承認を要する。
9. 経費精算において、振込対応では無く、上記の仮払金を活用し現金にて謝金精算や立替精算を行う場合は、必ず受領者から支部宛での領収書を頂き、証憑として支部事務局へ提出しなければならない。
10. 支部事務局（または外部委託している業者・個人）は、提出されたインストラクター・タスク一覧、旅費申請書、領収書等に基づき、謝金（交通費・宿泊費含む）・立替金の精算を行う。また謝金源泉税分の納税を行う。（謝金額についてはJCS-ITC 規定に則る。また旅費申請書、領収書等の証憑が無いものの精算は出来ない。）
11. 支部事務局は、収入・経費を取纏め（漏れが無いこと、経費使用理由等が明確であること等を再確認）の上、本部事務局へ提出し会計ソフトへの入力を依頼する。

(支部委員会)

第13条

2. 支部長は、本支部の事業の円滑な推進を図るため必要があると認めるときは、役員会の決議を経て、委員会を設置することができる。なお、これを廃止する場合も同様とする。
3. 前条の委員会は、必要に応じて部会、小委員会を組織することができる。
4. 委員会は、目的、委員構成、業務などを規定した支部委員会内規を作成し、役員会の承認を得なければならない。
5. 委員会は、委員長1名および委員若干名で組織する。
6. 委員長は支部長が支部役員の中から指名し、役員会の議を経て選任する。
7. 必要に応じて委員の中から副委員長を置くことができる。
8. 副委員長、委員は委員長が指名し、役員会の議を経て選任する。

附則

- 1) この内規は、平成27年2月1日から試行期間とし、平成28年4月1日から完全実施とする。
- 2) この内規改正は、支部役員会において審議し、支部社員総会にて決定する。

令和元年9月28日一部改定

令和2年9月5日一部改定

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部 学術委員会内規

(設置)

第1条 関東甲信越支部運営内規第13条に基づき、本支部に一般社団法人日本循環器学会関東甲信越支部学術委員会（以下、「本委員会」という）を置く。

(目的)

第2条 本委員会は、日本循環器学会関東甲信越支部の学術活動を支援することを目的とする。

(組織)

第3条 本委員会は、委員長1名、委員若干名を以って組織する。

(委員)

第4条 委員長は役員とし、役員会の議を経て、支部長が委嘱する。

2. 委員は、委員長が指名し支部長が委嘱する。

3. 委員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(委員会)

第5条 本委員会は委員長が召集し、議長となる。

2. 本委員会の審議事項は、役員会に報告し、承認を得なければならない。

(業務)

第6条 本委員会は、第2条の目的達成のために次の業務を行う。

1) 地方会の学術面の向上について検討・協議し、役員会および会長に上申する。

2) その他学術活動に対する支援に必要な業務

(計画・予算)

第7条 委員長は、年度毎に業務計画とその遂行に必要な予算について、当該年度開始前に役員会に諮らなければならない。

(報告)

第8条 委員長は、任期終了時においては、任期中の活動報告を役員会に提出し、次期委員会へ引き継がなければならない。

(改廃)

第9条 この内規の改廃は、役員会の承認を得なければならない。

附 則 この内規は、令和元年9月28日より施行する。

令和2年9月5日一部改訂

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部 情報・広報委員会内規

(設置)

第1条 関東甲信越支部運営内規第13条に基づき、本支部に一般社団法人日本循環器学会関東甲信越支部情報・広報・啓発委員会（以下、「本委員会」という）を置く。

(目的)

第2条 本委員会は、本会のホームページやインターネットを利用した学会員への情報の提供、学術成果の社会への公開と還元、国内外の関連学会の情報提供交換等に関する活動を実施することを目的とする。

(組織)

第3条 本委員会は、委員長1名、委員若干名を以って組織する。

(委員)

第4条 委員長は役員とし、役員会の議を経て、支部長が委嘱する。

2. 委員は、委員長が指名し支部長が委嘱する。
3. 委員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(委員会)

第5条 本委員会は委員長が召集し、議長となる。

2. 本委員会の審議事項は、役員会に報告し、承認を得なければならない。

(業務)

第6条 本委員会は、第2条の目的達成のために次の業務を行う。

- 1) 学会のホームページの作成、管理及び運用
- 2) インターネットによる本会の情報サービス
- 3) 国内外の関連学会等との情報交換と広報活動
- 4) その他必要な業務。

(計画・予算)

第7条 委員長は、年度毎に業務計画とその遂行に必要な予算について、当該年度開始前に役員会に諮らなければならない。

(報告)

第8条 委員長は、任期終了時においては、任期中の活動報告を役員会に提出し、次期委員会へ引き継がなければならない。

(改廃)

第9条 この内規の改廃は、役員会の承認を得なければならない。

附 則 この内規は、令和元年9月28日より施行する。

令和2年9月5日一部改訂

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部 ダイバーシティ推進委員会内規

(設置)

第1条 関東甲信越支部運営内規第13条に基づき、本支部に一般社団法人日本循環器学会関東甲信越支部ダイバーシティ推進委員会（以下、「本委員会」という）を置く。

(目的)

第2条 本委員会は、循環器学分野における男女並びに多種多様人材の共同参画の推進を図り、男女並びに多種多様人材の共同参画の視点に立った教育・研究・就業体制を確立するため、企画・立案・実施に当たることを目的とする。

(組織)

第3条 本委員会は、委員長1名、委員若干名を以って組織する。

(委員)

第4条 委員長は役員とし、役員会の議を経て、支部長が委嘱する。

2. 委員は、委員長が指名し支部長が委嘱する。
3. 委員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(委員会)

第5条 本委員会は委員長が召集し、議長となる。

2. 本委員会の審議事項は、役員会に報告し、承認を得なければならない。

(業務)

第6条 本委員会は、第2条の目的達成のために次の業務を行う。

- 1) 国内外の関連学会・団体等との情報交換および連携
- 2) 地方会でのダイバーシティ推進セッション等の企画立案・実施
- 3) その他必要な業務

(計画・予算)

第7条 委員長は、年度毎に業務計画とその遂行に必要な予算について、当該年度開始前に役員会に諮らなければならない。

(報告)

第8条 委員長は、任期終了時においては、任期中の活動報告を役員会に提出し、次期委員会へ引き継がなければならない。

(改廃)

第9条 この内規の改廃は、役員会の承認を得なければならない。

附 則 この内規は、令和元年9月28日より施行する。

令和2年9月5日一部改訂

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部 チーム医療委員会内規

(設置)

第1条 関東甲信越支部運営内規第13条に基づき、本支部に一般社団法人日本循環器学会関東甲信越支部チーム医療委員会（以下、「本委員会」という）を置く。

(目的)

第2条 本委員会は、地方会におけるコメディカルとの関わり方の検討および、コメディカル関係の諸学会との連絡調整を行う。

(組織)

第3条 本委員会は、委員長1名、委員若干名を以って組織する。

(委員)

第4条 委員長は役員とし、役員会の議を経て、支部長が委嘱する。

2. 委員は、委員長が指名し支部長が委嘱する。

3. 委員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(委員会)

第5条 本委員会は委員長が召集し、議長となる。

2. 本委員会の審議事項は、役員会に報告し、承認を得なければならない。

(業務)

第6条 本委員会は、第2条の目的達成のために次の業務を行う。

1) 地方会におけるコメディカルの位置付けの検討および、コメディカル関係学会との連絡調整をする。

2) 関係諸学会からの依頼に応じて、本委員会において代表の派遣などを選考する。

3) 委員は、関係諸学会への渉外を担当し、外部機関の要請に応じてこれらが主催する会議等に本学会の代表として出席する。

4) その他必要な業務

(計画・予算)

第7条 委員長は、年度毎に業務計画とその遂行に必要な予算について、当該年度開始前に役員会に諮らなければならない。

(報告)

第8条 委員長は、任期終了時においては、任期中の活動報告を役員会に提出し、次期委員会へ引き継がなければならない。

(改廃)

第9条 この内規の改廃は、役員会の承認を得なければならない。

附 則 この内規は、令和元年9月28日より施行する。

令和2年9月5日一部改訂

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部 地方会あり方検討委員会内規

(設置)

第1条 関東甲信越支部運営内規第13条に基づき、本支部に一般社団法人日本循環器学会関東甲信越支部地方会あり方検討委員会（以下、「本委員会」という）を置く。

(目的)

第2条 本委員会は、地方会を活性化することを目的とし、地方会のあり方を検討・協議し、役員会および会長に上申する。

(組織)

第3条 本委員会は、委員長1名、委員若干名を以って組織する。

(委員)

第4条 委員長は役員とし、役員会の議を経て、支部長が委嘱する。

2. 委員は、委員長が指名し支部長が委嘱する。
3. 委員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(委員会)

第5条 本委員会は委員長が召集し、議長となる。

2. 本委員会の審議事項は、役員会に報告し、承認を得なければならない。

(業務)

第6条 本委員会は、第2条の目的達成のために次の業務を行う。

- 1) 若手、女性、メディカルスタッフの参加促進策を検討・協議する。
- 2) 地方会プログラムの充実化を検討・協議する。
- 3) その他必要な業務

(計画・予算)

第7条 委員長は、年度毎に業務計画とその遂行に必要な予算について、当該年度開始前に役員会に諮らなければならない。

(報告)

第8条 委員長は、任期終了時においては、任期中の活動報告を役員会に提出し、次期委員会へ引き継がなければならない。

(改廃)

第9条 この内規の改廃は、役員会の承認を得なければならない。

附 則 この内規は、令和元年9月28日より施行する。

令和2年9月5日一部改訂

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部 予防委員会内規

(設置)

第1条 関東甲信越支部運営内規第13条に基づき、本支部に一般社団法人日本循環器学会関東甲信越支部予防委員会（以下、「本委員会」という）を置く。

(目的)

第2条 本委員会は、循環器疾患等の予防に関する事柄について、協議・検討し、役員会上申することを目的とする。

(組織)

第3条 本委員会は、委員長1名、委員若干名を以って組織する。

(委員)

第4条 委員長は役員とし、役員会の議を経て、支部長が委嘱する。

2. 委員は、委員長が指名し支部長が委嘱する。
3. 委員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(委員会)

第5条 本委員会は委員長が召集し、議長となる。

2. 本委員会の審議事項は、役員会に報告し、承認を得なければならない。

(業務)

第6条 本委員会は、第2条の目的達成のために次の業務を行う。

- 1) すべての国民の循環器疾患等の予防を推進する業務。
- 2) 予防活動を積極的に推進し、その重要性を社会に発信する業務。
- 3) 循環器疾患等の予防研究の実施ならびに支援。
- 4) その他、循環器疾患等の予防に関する必要な業務。

(計画・予算)

第7条 委員長は、年度毎に業務計画とその遂行に必要な予算について、当該年度開始前に役員会に諮らなければならない。

(報告)

第8条 委員長は、任期終了時においては、任期中の活動報告を役員会に提出し、次期委員会へ引き継がなければならない。

(改廃)

第9条 この内規の改廃は、役員会の承認を得なければならない。

附 則 この内規は、令和元年9月28日より施行する。

令和2年9月5日一部改訂



笑顔あふれる将来設計を支える。

【禁忌】(次の患者には投与しないこと)

- (1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人〔妊婦、産婦、授乳婦等への投与〕の項参照。〕
- (2) 重度の肝障害のある患者〔使用経験がない。また、類薬において重篤な肝障害の報告がある。〕
- (3) 強いCYP3A4誘導剤(リファンピシン、セイヨウオトギリソウ含有食品、カルバマゼピン、フェニトイン、フェノバルビタール、リファブチン)を投与中の患者〔相互作用〕の項参照。〕
- (4) 本剤及び本剤の成分に過敏症の既往歴のある患者

【効能・効果】

肺動脈性肺高血圧症

＜効能・効果に関連する使用上の注意＞

1. WHO機能分類クラスIにおける有効性及び安全性は確立していない。
2. 本剤の使用にあたっては、最新の治療ガイドラインを参考に投与の要否を検討すること。

【用法・用量】

通常、成人には、マシテンタンとして10mgを1日1回経口投与する。

【使用上の注意】

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

(1) 投与開始前の肝酵素(AST、ALT)値のいずれか又は両方が基準値上限の3倍を超える患者〔使用経験がない。〔重要な基本的注意〕の項参照。〕(2) 透析中の患者〔使用経験がない。〕(3) 重度の貧血のある患者〔重要な基本的注意〕の項参照。〕(4) 低血圧の患者〔重要な基本的注意〕の項参照。〕

2. 重要な基本的注意

(1) 本剤の投与に際しては、以下について説明及び指導し、妊娠する可能性のある女性には本剤投与開始前及び投与中は1か月に1回妊娠検査を実施すること。〔禁忌〕及び〔妊婦、産婦、授乳婦等への投与〕の項参照。〕1) 妊娠中に本剤を服用した場合の胎児に及ぼす危険性 2) 投与中及び投与中止後1か月間は確実な避妊法を用いるとともに、妊娠した場合若しくはその疑いがある場合には、医師に直ちに連絡すること (2) 他のエンドセリン受容体拮抗薬において肝酵素値上昇が認められているため、肝機能検査を必ず投与開始前に行い、投与中は、必要に応じて肝機能検査を定期的に行うこと。本剤投与中に臨床的に顕著にAST、ALT値が上昇した場合、これら肝酵素値上昇に伴いビリルビン値が基準値上限の2倍を超える場合、又はこれら肝酵素値上昇に伴い黄疸などの肝障害の徴候を伴う場合には、本剤投与を中止すること。〔慎重投与〕の項参照。〕(3) 本剤の投与によりヘモグロビン減少が起こる可能性があるため、本剤の投与開始前及び投与中は必要に応じてヘモグロビン濃度を定期的に測定することが望ましい。〔慎重投与〕の項参照。〕(4) 肺静脈閉塞性疾患患者において、血管拡張薬を使用した場合に肺水腫の発現が報告されているため、本剤を投与しないことが望ましい。また、本剤の投与により肺水腫の徴候がみられた場合は肺静脈閉塞性疾患の可能性を考慮すること。肺静脈閉塞性疾患が疑われた

場合には、本剤の投与を中止すること。(5) 重度の腎障害のある患者では、本剤の投与により低血圧及び貧血が起こる可能性があるため、血圧及びヘモグロビンの測定を考慮すること。(6) 本剤は血管拡張作用を有するため、本剤の投与に際しては、血管拡張作用により患者が有する影響を受ける可能性がある状態(降圧剤投与中、安静時低血圧、血流量減少、重度の左室流出路閉塞、自律神経機能障害等)にあるのかを十分検討すること。〔慎重投与〕の項参照。〕

3. 相互作用

本剤は主にCYP3A4により代謝される。

(1) 併用禁忌(併用しないこと)

強いCYP3A4誘導剤〔リファンピシン(リファジン)、セイヨウオトギリソウ(セント・ジョーンズ・ワート)含有食品、カルバマゼピン(テグレート)、フェニトイン(アレビアチン)、フェノバルビタール(フェノバル)、リファブチン(ミコブティン)〕

(2) 併用注意(併用に注意すること)

強いCYP3A4阻害剤〔ケトコナゾール*、HIV感染症治療薬(リトナビル等)〕
CYP3A4誘導剤〔エファビレンツ、モダフィニル、ルフィナミド等〕

*経口剤、注射剤は国内未発売

4. 副作用

国内臨床試験において、安全性解析対象症例30例中21例(70.0%)41件に副作用が認められた。主な副作用は、頭痛9例(30.0%)、潮紅7例(23.3%)、貧血、浮腫及び末梢性浮腫が各2例(6.7%)であった(申請時)。海外臨床試験において、安全性解析対象症例¹⁾242例中56例(23.1%)に副作用が認められた。主な副作用は、頭痛12例(5.0%)、貧血9例(3.7%)、浮動性めまい及び末梢性浮腫が各6例(2.5%)であった(申請時)。

(1) 重大な副作用

1) 貧血(4.0%)^{注2)}：貧血、ヘモグロビン減少が起こる可能性があるため、定期的な検査及び十分な観察を行い、異常が認められた場合はその程度及び臨床症状に応じて、投与中止など適切な処置をとること。〔慎重投与〕、〔重要な基本的注意〕の項参照。〕

注1) 海外臨床試験成績の10mg投与群より算出した。

注2) 海外及び国内臨床試験成績の10mg投与群より算出した。

●その他の使用上の注意等につきましては、製品添付文書をご参照ください。

創薬・処方薬医薬品(注冊—医師等の処方箋により使用すること)

エンドセリン受容体拮抗薬

薬価基準収載

オプスミット[®]錠10mg

一般名：マシテンタン / Macitentan

まだないくすりを 創るしごと。

世界には、まだ治せない病気があります。

世界には、まだ治せない病気とたたかう人たちがいます。

明日を変える一錠を創る。

アステラスの、しごとです。

明日は変えられる。



www.astellas.com/jp/



処方箋医薬品：注意—医師等の処方箋により使用すること

胆汁酸トランスポーター阻害剤 【薬価基準収載】

ゲーフィス錠[®]5mg
GOOFICE[®] 【エロピキシバット水和物錠】

製造販売元



EAファーマ株式会社
東京都中央区入船二丁目1番1号

販売<資料請求先>



持田製薬株式会社
東京都新宿区四谷1丁目7番地
TEL 0120-189-522(フリー相談窓口)

●効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

2018年7月作成 (N4)



高脂血症治療剤

薬価基準収載

パルモディア[®]錠 0.1mg

PARMODIA[®] TAB. 0.1mg (ペマフィブラート錠)

処方箋医薬品：注意—医師等の処方箋により使用すること

効能又は効果、用法及び用量、禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。



製造販売元(文献請求先及び問い合わせ先)

興和株式会社

東京都中央区日本橋本町三丁目4-14

2020年8月作成



経皮吸収型・ β -遮断剤 薬価基準収載

処方箋医薬品(注意—医師等の処方箋により使用すること)

β ビソノテープ[®] 2mg・4mg・8mg

(ピソプロロール・テープ剤)

Bisono[®] tape 2mg・4mg・8mg



製造販売



販売 アステラス製薬

■効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等詳細は、製品添付文書をご参照下さい。

2020年1月作成
(BTB52071)

[文献請求先・お問い合わせ先] トーアエイヨー株式会社 信頼性保証部 / 電話 0120-387-999

処方箋医薬品[※]
クロライドチャンネルアクチベーター

薬価基準収載

アミティーザ[®]カプセル

12 μ g
24 μ g

ルビプロストンカプセル Amitiza Capsules

注) 注意—医師等の処方箋により使用すること

「効能・効果」、「用法・用量」、「禁忌を含む使用上の注意」、「効能・効果に関連する使用上の注意」、「用法・用量に関連する使用上の注意」等については添付文書をご参照ください。

製造販売元 **マイランEPD 合同会社**
東京都港区虎ノ門5丁目11番2号
〔資料請求先〕 くすり相談室 フリーダイヤル 0120-938-837

2018年11月作成

nihon
medi+physics

Nuclear Medicine

処方箋医薬品[※] 薬価基準収載

放射性医薬品・心臓疾患診断薬・甲状腺疾患診断薬
腫瘍(脳、甲状腺、肺、骨・軟部、腎臓)診断薬

塩化タリウム (²⁰¹Tl) 注NMP

日本薬局方塩化タリウム (²⁰¹Tl) 注射液

処方箋医薬品[※] 薬価基準収載

放射性医薬品・心疾患診断薬

カルディオダイナ[®] 注

放射性医薬品基準15-(4-ヨドフェニル)-
3(R,S)-メチルベンタデカン酸 (¹²³I) 注射液

処方箋医薬品[※] 薬価基準収載

放射性医薬品・心臓疾患診断薬、心機能診断薬

マイオビュー[®] 注 シリンジ

放射性医薬品基準テトロホスミンテクネチウム (^{99m}Tc) 注射液

処方箋医薬品[※] 薬価基準収載

放射性医薬品・心臓疾患診断薬、心機能診断薬

マイオビュー[®] 「注射用」

放射性医薬品基準テトロホスミンテクネチウム (^{99m}Tc) 注射液調製用

®: 登録商標

注) 注意—医師等の処方箋により使用すること

■ 効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等は、添付文書をご参照ください。

資料請求先

日本メジフィジックス株式会社

〒136-0075 東京都江東区新砂3丁目4番10号

製品に関するお問い合わせ先 ☎ 0120-07-6941

弊社ホームページの「医療関係者専用情報」サイトでSPECT検査について紹介しています。

<http://www.nmp.co.jp>

2016年3月改訂

漢方は、自然から。

漢方は、たくさんの人の手と想いを経て生まれます。

長い年月をかけて、樹木が豊かな山を育み、その山で水が蓄えられる。

山で磨かれた水が、生薬をつくるための畑に注がれ、
生産農家のみなさんによって大切に育てられる。

人が本来持っている自然治癒力を高め、生きる力を引き出すことを目的とした
漢方にとって、「自然」はいのちを強くする力そのものです。

その力をそこなうことなく、すべての人が受け取れる形にして届けたい。
そして健康に役立ててほしい。

100年以上、自然と向き合いつづけてきた私たちツムラの願いです。

自然と健康を科学する。漢方のツムラです。



www.tsumura.co.jp

資料請求・お問い合わせは、お客様相談窓口まで。

【医療関係者の皆様】0120-329-970 【患者様・一般のお客様】0120-329-930

受付時間 9:00～17:30(土・日・祝日は除く)

(2019年5月制作) RSCAf01-D[®]



HIF-PH阻害剤 一腎性貧血治療剤— 薬価基準収載

バフセオ[®] 150mg
錠 300mg
VAFSEO[®] Tablets 150mg, 300mg (バダデユスタット錠)

新発売

劇薬 処方箋医薬品 (注意—医師等の処方箋により使用すること)

「効能又は効果」、「用法及び用量」、「警告・禁忌を含む使用上の注意」等については添付文書をご参照ください。



製造販売元(文献請求先及び問い合わせ先)
田辺三菱製薬株式会社
大阪市中央区道修町3-2-10



プロモーション提携
扶桑薬品工業株式会社
大阪市城東区森之高二丁目3番11号

2020年8月作成

